

# 正徳館 だより



県立正徳館高等学校  
長岡市与板町東与板 173  
TEL0258-72-3121  
令和6年12月23日発行

## 教頭より

『二学期を振り返って』

教頭 佐藤 直之

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。今学期の大きな行事を紹介いたします。

【正徳館フェスティバル】

晴天に恵まれ、最高のコンディションで実施できました。生徒が考えたレクリエーション企画、一年生芸術選択者の発表、キッチンカーが三台、丸山農園の農産物販売、餅つきイベント、きのこ汁販売と盛りだくさんでした。

来場者数は二百三十三人にもなり、大盛況でした

【創立二十周年記念式典】

正徳館高校創立二十周年の節目に当たった生徒全員で、式典前日に会場を設営し、

来賓の方々を迎える準備をしました。

式典当日は晴天に恵まれ、

最高の慶賀となりました。記念講演では、永井保雄様、大南博美様より「駆け抜けた青春」と題して示唆に富んだお話をいただき、生徒にとって学校生活の糧となったのではないかと思います。



その他、三年生は社会人としての教養を身に付けるため、司法書士による消費者教育や新潟経済同友会員による出前授業などを行いました。

また、一年生の修学旅行では、東京方面二泊三日で、デイズニールランド研修や都

内班別研修など、生徒が思い思いのコースを組み立てて実践してきました。一年生は地元企業を訪問し、インタビューを行いました。

本校のカリキュラム・ポリシーには「⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します」とあります。今後も様々な教育活動を通じ、キャリア教育を充実してまいりますので、より一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、暑い夏も終わり秋を実感したのも束の間、寒い冬となりました。インフルエンザや新型コロナウイルスに感染しないよう、健康に留意し過ごしていきましょう。

## PTA会長より

『正徳館フェスティバル及び創立二十周年記念事業を終えて』

PTA会長

今年度の秋、正徳館高校では大きなイベントが二つ行

われました。

一つ目は十月二十六日に行われた正徳館フェスティバルです。今年度も生徒及び教職員の皆様、後援会の皆様や学校マルシェに御協力してくださった事業者の皆様のおかげで無事開催することができました。心から感謝申し上げます。

今年度は「戮力協心」私たちにはできないものをつくり上げようというテーマで開催されました。日頃の学習成果の発表や部活動企画などは見応えがあり、イントロクイズやビンゴ大会などのステージ企画もあり、生徒から地域の方々まで楽しめる内容盛りだくさんでテーマどおりの素晴らしい企画でした。後援会企画の杵つき餅イベントは迫力もあり、つきたてのお餅とキノコ汁は大変美味しかったです。午後にはVentodi Musicaの皆さんによるコンサートが開催され、素晴らしい音色を聴かせていただきました。非常に盛り上がった今年度のフェスティ

バルは、三年生の皆さんにとって、高校生活のいい思い出になるのではないかと思います。また、二年生の皆さんには来年度以降いつそう頑張っていたきたいと思っています。

二つ目は十一月十六日に挙行された正徳館高校創立二十周年記念式典です。多くのご来賓の皆様にご出席いただき行われました。その後行われた講演会では与板高校卒業生で、昭和五十五年全国高等学校野球選手権新潟大会で準優勝した時の野球部主将永井保雄様と、奥様でO/Nズランニングクラブ代表でマラソンランナーの大南博美様による貴重なお話を聴くことができました。今後正徳館高校が未長く地域から愛され、ますます発展していくことを心より願っています。

正徳館フェスティバル  
「教育の心」を軸にしたさまざまなイベントが盛りだくさん

餅つきイベント	餅つき体験	餅つき体験
おやつタイム	おやつタイム	おやつタイム
おやつタイム	おやつタイム	おやつタイム

日時 令和6年10月26日(土)  
午前9時30分から午後2時30分まで

〒950-0201 新潟県長岡市与板町東与板173  
TEL 0258-72-3121

# 正徳館 フェスティバル

『正徳館フェスティバルを振り返って』

## 三年フロア企画代表者

今年の正徳館フェスティバルはステージ企画・フロア企画・装飾の全部が大成功だったと思います。その中でも私はフロア企画を担当し、リーダーになりました。

まず三年生だけで集まり、今後のスケジュールを決めました。七月からは一、二年生徒の合同作業が始まり、最初にフロア企画の案を出し合いました。そこで「くじ引き」「お菓子取り」「ストラッカーアウト」「スタンプラリー」の四つに決めました。次に全員で協力して四つの企画のポスターを作成しました。そして夏休み。三年生は夏休み中も学校に来て、今後の作業の流れを話し合いました。二学期に入ると、三年生の半数が就職活動で忙しい時期となりました。就職活動を頑張りつつ、正徳館フ

フェスティバルの作業を進めるのはとても大変でした。十月、就職試験も無事終わり、フェスティバルまで一カ月を切った頃から、ストラッカーアウトのボードやスタンプラリーの用紙作り、景品の買い出しなどに取り掛かりました。そして前日。最後の仕上げとして体育館での準備を行いました。

当日は予想以上にたくさんの方の来場者を楽しんでもらい、用意していた景品が午前中に全部なくなるほどでした。一、二年生も当日の当番をしっかりとってくれて嬉しかったです。自分達を中心となつて企画を考えるのは大変でしたが、とても楽しくいい経験ができました。



## 『駆け抜けた青春』

### 三年茶道部

正徳館フェスティバルは毎年生徒だけでなく、多くの地域の方々が楽しみにしてくださっているイベントです。私達茶道部はこのイベントの目玉でもあるお点前のために早くから準備を進めてきました。

来てくださる方々にお茶の文化を楽しんでもらうことを目標に、茶道の作法やおもてなしの心を大切にして練習を重ねました。特に所作やお茶の点て方を完璧に覚えるまで何度も何度も繰り返し練習しました。

前日準備では、茶室を模した特設ブースを会議室に設けました。装飾は季節の花や和風の小物を用いて、訪れるお客様にリラックスしていただける空間を創り上げました。準備をしながら、お茶を飲む際の静けさや心を込めたおもてなしがお客様にとって特別な体験になるといいなと思いました。

当日は六十人以上のお客様様に茶道を楽しんでいただ

くことができました。中にはお茶を飲むのが初めてという方もいらつしやつて、感動しました。お茶を通じて少しでも日本の伝統文化を知ってもらえたら嬉しいです。

フェスティバルは私達茶道部にとって大切な発表の場であり、仲間との絆を深める場でもあります。これから茶道の素晴らしさを広めていけるよう努力を続けていきたいと思えます。



## 『自分の作品』

### 一年華道部

私は今年華道部に入部し、初めて深く花に触れました。初めは先生の作品を見よう見まねで生けることしかできませんでした。回を重ねるごとに自分なりに生けるようになっていきました。最初は丸水盤というシンプルな花器しか扱えませんでした。今では花を見て自ら花器を選べるまでになりました。

フェスティバル前日、事前に作品の構想を練って注文した花が届き、華道部全員で作業に取り掛かりました。今回私は白のカスミソウ、オレンジのガーベラ、りんどう、ハランを使用しましたが、初めて生けるお手本のない生け花に悪戦苦闘しながらも、自分を信じて何とか生け終わることができました。先生からはいつもより高さを出すようにと言われたので、ガーベラやりんどうで高さを出しつつ、カスミソウとまるめたハランを使い、ふんわりと

なるよう仕上げた作品は、自分の作品だと胸を張って言える出来栄でした。

フェスティバル当日、他校から来た友人に見てもらったら驚いた様子だったので、とても嬉しく感じました。

今回は部員全員で共同作品も作りました。白のユリやオンシジウムなどを一本ずつ生け、生徒玄関先に飾りました。きれいな色合いとユリの香りで、見ても嗅いでも楽しめる作品となりました。今回が初めての正徳館フェスティバルでしたが、無事に成功することができてよかったです。来年はさらに成長した自分で臨めるように頑張りたいと思います。



『理科部ステージ発表  
〜爆鳴器で知る化学エネルギーの謎〜』

### 二年理科部

今年度は、昨年のようなブラス発表ではなく、より多くの人に注目してもらええるステージ発表に挑戦しました。

まず実験道具を準備しました。今回の実験のために改良が必要なものもあり、初めて経験する作業は大変でしたが、慎重に作業を重ね、無事、実験用具を揃えることができました。次に、実際に実験を行い、どうすればうまくいくかを確認しました。実験の中にはとても大きな音が出るものもあり、最初はみんな不安な様子でしたが、練習で二回成功し、ホッとしました。あとはひたすらリハーサルを繰り返し、各自の動きをしっかりと把握。前日リハーサルでは急な変更もありましたが、すぐ別の方法で対処できてよかったです。

そしていよいよ本番。練習とは違い、地域の方々など多くの人にきていただきとても緊張しましたが、練習どお

り落ち着いて進めることを意識して本番に臨みました。

### 【実験の手順】

- ① 水素のシャボン玉を作り、火をつけ、水素の性質を調べる
- ② 酸素のシャボン玉を作り、火をつけ、酸素の性質を調べる
- ③ 酸素が入った瓶の中に線香を入れ、酸素の性質を調べる
- ④ 酸素と水素を1:2で混ぜて作ったシャボン玉に火をつけると大きな音が鳴る
- ⑤ 酸素と水素を1:2で混ぜてホースの中に入れ、ホースの先を火をつけると大きな音が鳴り、水ができて白く曇る
- ⑥ ホースの中の煙を外に出す

最後の実験で一度失敗し少し焦りましたが、二回目でも無事成功。観客の方々のリアクションも見ることができました。普段やることがない経験だったのでとても不安でしたが、最後の挨拶を終え拍手が起った時は安堵の気持ちでいっぱいでした。

今回の発表で私達は自分の役目をしっかりと果たすことができました。また部員全員で何度も練習し、自信を持って本番に臨むことができました。

ました。来年はもっと部員のを多く取り入れ、さらにレベルアップした実験で多くの方々に楽しんでいただきたいです。



『ポスター制作に取りかかって』

### 二年制作者

今回私たちは、正徳館フェスティバルのポスター、ちらし、ビラを制作しました。

まずポスター制作にあたっては、遠くからでも見やすいように、文字の大きさや色を工夫しました。真ん中には男子生徒と女子生徒を二人で分担して描きました。楽し

そうな雰囲気を出したかったので、人物の構図や背景のカラーを明るくしました。

ちらしは、「青・白・オレンジ」の三色を使いました。どの色を使うか最初は悩みましたが、最終的に正徳館高校の校章の色にしました。また学校を意識して、フェスティバルの予定や内容を「黒板」に書くデザインにしました。文字の色は「白・ピンク・青・黄色」の四色のチョークで再現しています。正徳館フェスティバルに興味をもらうために、わかりやすくかわいい雰囲気を出せるよう意識しました。(裏に続く)





最後に、コンサートのピラ  
は制作期間が二日しかあり  
ませんでしたが、二人で話し  
あい、イラスト担当と文字担  
当に分かれて作業しました。  
工夫したところはフォント  
の使い分けです。大きく見せ  
たい題名は特殊なフォント  
を使用しました。また、ピラに  
もイラストの要素を入れた  
かったので、男子生徒を描き  
吹き出しをつけ、その中にコ  
ンサートのプログラムを入  
れるデザインにしました。  
今年の正徳館フェスティ  
バルではさまざまな貴重な  
仕事をさせていただき、とて  
も嬉しかったです。

## その他 行事等報告

『インターンシップで学  
んだこと』

二年生

私は三日間、マルイ与板店  
にインターンシップに行き  
ました。そこで仕事の大変さ  
を知ることができました。

仕事内容は商品の補充と  
陳列です。行く前までは簡単  
な作業だと思っていました  
が、実際に働いてみると、商  
品の位置が分からなかった  
り、冷蔵されている商品の向  
きを直したりと大変でした。  
その他にも、商品を置く位置  
を間違えるとお客様に迷惑  
がかかり、次に補充する時に  
見つけづらくもなるので、一  
つ一つの作業に責任を持つ  
て取り組むことが大切だと  
思いました。  
また、あいさつも自分から  
お客様に対してすることで  
店の雰囲気は良くなると思  
いました。あいさつはどの  
仕事に就いても大切な事だ  
と思いました。

この三日間の経験を、これ  
から自分が就職する時に役  
立てていきたいです。



『保育実習を振り返って』

一年生

私たちの班は保育実習で  
大きなかぶの人形劇、風船遊  
び、手遊びをしました。特に  
印象に残っているのは、大き  
なかぶの、かぶを引っ張る場  
面で、「うんとこしょ、どっ  
こいしょ」の掛け声に合わせ、  
園児たちが一緒に声を出し  
て引っ張る真似をしてくれ  
たことです。笑顔で集中して  
いる姿を見て、頑張っていました。  
子どもと実際に関わって  
感じたことは、「子どもの成  
長に合わせた対応」と「安全  
面への配慮」の重要性です。

まず、性格や成長スピード  
によって子ども一人ひとり  
が異なる反応を示すことが  
わかりました。例えば、自分  
から興味のあるものに積極  
的に近づいて話したり遊ん  
だりする子がいる一方で、一  
人黙々と遊ぶ子もいました。  
私は最初、全員に同じ対応を  
してしまい、うまくいきませ  
んでした。しかし、保育士さ  
んからアドバイスをいただ  
き、一人一人の個性や気持ち  
に寄り添うことを心がけて  
からはスムーズに関わるこ  
とができました。このことか  
ら「子どもの気持ちに共感し、  
その子にあったサポートを  
すること」の大切さを学びま  
した。

次に保育園では常に子ど  
もが安全に過ごせるように  
保育士さんが常に細かい所  
まで気を配っていました。転  
びそうになった子を支えた  
り、危険なものが手に届く所  
にないかを確認したりと、保  
育士さんは常に周りの状況  
把握をされていて、日々の安全  
管理の積み重ねが重要であ  
ることがわかりました。

最後に、子どもと過ごす時  
間を通して、「遊び」の大切  
さについても考えさせられ  
ました。一緒に遊ぶ中で子ど  
もが自然に協力し合ったり、  
ルールを守ることを学んだ  
りする姿を目にしました。子  
どもにとって遊びはただ楽  
しいだけでなく、社会性やコ  
ミュニケーションを育む大  
切な時間だと感じました。



## 新生徒会役員

十一月十二日生徒会役員  
選挙が実施され、新役員が次  
のように選出されました。新  
体制への協力をよろしくお  
願いします。

会長 二年生  
副会長 二年生